

文部科学省情報ひろばサイエンスカフェ

「再生をめぐる～生命科学と、デザインの立場から一大震災を越えて」

日時 平成23年5月27日（金） 19:00～20:30

場所 文部科学省情報ひろばラウンジ

主催 日本学術会議、文部科学省

講師：本江 正茂（東北大学大学院工学系研究科 准教授）

大隅 典子（日本学術会議会員、東北大学大学院医学系研究科 教授）

報告：佐尾 賢太郎（日本科学未来館 科学コミュニケーター）



今回は震災で大きな被害の出た東北大学の2人の先生が、それぞれの専門である建築学と生命科学の観点から、震災と今後の復興についてプレゼンテーションとディスカッションを行う形式で行われた。

本江先生の写真と実体験に基づいた話には、被害の甚大さを痛感せずにはいられなかった。また大隅先生の話では、生命は入れ子状に構築されていて、そのおかげで危機的環境に対応できたり、再生が可能になるという。街は生命とよく似た入れ子状になっていて、実際、街の姿は植物の葉によく似ていた。植物には大きな葉脈だけでなく、細かい葉脈も必要であるように、街の復興も高速道路だけでなく、小さな通りを人が行き来し交流するような、温かみのある生き物らしい観点があつたらよいとの提案だった。

その後の会場を含めたディスカッションでは、復興にあたり単に建物を再建するだけでは済まない問題が多数浮き彫りになった。これまで、建築は新しい環境を提示してきたが、環境と生活が一体化している農業や漁業従事者など、環境を変えられない人たちをどうサポートするかということを考えてこなかった反省点も話題になった。復興でどういった人達が主体となればいいのかという問いもあった。これには、社会は入れ子になっているので、どこか一つのレベルがしっかりやれば十分というのではなく、それぞれが別のレベルを気遣いながら自分たちの役割を果たしていけば個々の復興が調和し、全体での復興につながるというお答えがあり、印象的だった。分野のまったく異なるお二人の話が、被災したからこそ語れる深い洞察や会場からの質問でどんどん盛り上がっていくのを肌で感じ、素直に参加してよかったという充実感が得られるイベントだった。